

## はじめに

### 正夫さんのその後

あれから10年。正夫さんのおかあさんは、ベッド上での生活になりましたが、デイサービスに通い、時にはショートステイを利用しながら自宅で静かに暮らしています。正夫さんは今年、福祉推進委員に推薦され、地域の活動について考える機会が増えました。奥さんは保健補導員の役を受けたことがきっかけで、健康づくりや介護予防について関心を寄せるようになりました。

#### ◆寄り合いの席で

「だいたい福祉推進委員ちゃ何をすりゃいいだえ。」

「そこがいまひとつはっきりわからねえんだよ。おれも一年やっちゃあみたけど、去年は御柱だったもんで、特別なことはしなんだでなあ…そもそもボランティアや民生委員と何が違うかもわからねえし。」

「そうね、一度、保健福祉サービスセンターに相談してみましようか。」

「こんな相談もサービスセンターかえ？」

「そうよ、地域福祉行動計画を作るときにもお世話になったし、私たちボランティアの活動もいろいろアドバイスしてもらってるのよ。」

「へえ～！？ほおゆうけ～！あそこの職員は何でもやれるだなあ！ところで、何だい？その『地域福祉行動計画』ってのは？」

「あらやだ、この地区の計画よ。そのことも一緒に説明してもらえばいいわ。早速区長さんに相談して、一度、勉強会を開きましようよ！」

#### ◆わからないことは何でも聞け

後日、区の公民館で開かれた小さな勉強会に、保健福祉サービスセンターの職員が出かけて行きました。

保健福祉サービスセンターには、行政の職員と、社会福祉協議会の職員がいます。行政の職員は、福祉推進委員の役割や、民生委員、ボランティア等の活動との違いを説明し、社協の職員は、他の地区の様々な活動事例などを紹介してくれました。そして、今、なぜ地域での支え合いが必要なのか、社会の変化や地域の現状も交えて分かりやすく解説し、こうした小さな勉強会を開催することも、地域福祉行動計画の実践であること、出来ることから気長に実践し、継続していくことが大切だと話してくれました。

「う～ん。行動計画ねえ… 行動って言ったって何を行動すりゃいいだか…」

「ねえ、ここに書いてある『おたがいさまっぴ』を使った避難訓練』っていうのを、今度うちの区でもやってみない？」

「避難訓練なら、毎年やっちゃあいるが…その『おたがいさまっぴ』っちゃんない??」

「もう！！ サービスセンターの職員さん、説明お願いします！！」

「やいやい。わからねえことは何でもサービスセンターに聞きゃいいだな！」

さて、正夫さんたち福祉推進委員は、おたがいさまの整備のため、地域の中で手助けがほしいと思われる人をピックアップし、手分けして訪問を始めました。

訪れたのは、隣組の太郎さんのお宅です。この続きは28ページで・・・

## ◆福祉21ピーナスプランと保健福祉サービスセンター

福祉推進委員になった正夫さん。保健補導員になった奥さん。お二人の地域での活動を支え、応援しているのは保健福祉サービスセンター（以下サービスセンター）です。

10年目を迎えたセンターは、相談内容も多岐にわたるようになりました。「ゴミが出せない」等のちょっとした困りごとから、“介護相談”“身寄りのない認知症高齢者の財産管理”“DV（夫婦間などの家庭内暴力）や児童虐待”…などなど。

第1次のプランでは「高齢」「障害」「子ども」等分野別の課題や問題に取り組むため、サービスセンターだけでなく、各種の相談支援機関を整備・充実してきました。しかし、いろいろな問い合わせ、さまざまな申請の受け付け、苦情の対応、地域のボランティア活動や福祉活動への支援、広報活動など、地域の中の出来ごとについて何でも受け付け、つなぎ、対応しているのはやはりサービスセンターです。

その中で、サービスセンターが何よりも大切にしてきたのは訪問活動です。サービスセンターの職員は、相談を待っているだけではなく日々の訪問活動を通して地域の人とつながり、さまざまな課題を発掘してきました。そして、たくさんの課題の中から「公的なサービスでは上手く解決できないこと」や「誰かがちょっと手伝うことで解決できること」があることを整理し、こうした課題をどう解決したらよいかを考え続けてきました。日常生活の「ちょっとしたこと」は、手伝ってくれる「誰か」を見つけ、増やし、つなげていくことで、何とかなるかもしれない…と考えました。

このことをふまえて、第2次福祉21ピーナスプランでは、「身近な地域での支え合いの力」に着目しました。その人らしく暮らすための理想のシステムは、その人が自分の持っている力を十分に発揮し、それを家族が支え、その家族を、親しい人や身近に住む人たちが支えること・・・ちょっとした手助け、ちょっとした見守り、ちょっとした声かけをつなげ、増やしていくこと。それは、家族の生活を支えるだけでなく、その人自身の力を引き出すことにもつながると考えています。そのためには、こうした支え合いが自然にできる地域をつくることが重要になります。“言うは易く行うは難し”ですが、第2次のプランではそこに取り組みたいと考えました。まずは、身近なところで行われている活動を通して人と人がつながることから始め、これからの地域福祉を展開していこうと考えています。

保健福祉サービスセンターは、これからも、地域の皆さんと共に悩み、共に考え、何事も地域の皆さんと二人三脚で取り組んでいきたいと考えています。

“住んでよかった茅野市”を目指して・・・